

第14 回江東区都市計画マスタープラン2022推進会議【会議録】

開催日時		令和 7 年 9 月 2 日(火) 午前10 時 00分	
開催場所		江東区文化センター3 階第 3 研修室	
出席者 (敬称略・順不同)		【委員】 ＜委員長＞ 志村 秀明 ＜委員＞ 市古 太郎、江守 央、森本 章倫 【区職員】 都市整備部長、まちづくり調整担当部長、都市計画課長、まちづくり推進課長、再開発担当課長	
		【議題】	【所管】
		江東区都市計画マスタープラン 2022 の成果管理について	都市計画課
【議事概要】			
No	該当資料	委員の意見要旨	区の回答要旨
1	資料 3	今年度より、バリアフリー基本構想の改定作業が行われており、関連するアウトカム指標で見ると、総合的なまちづくりでは「3 多様な人が住みやすく、健康に生き生きと暮らせるまち」、テーマ別まちづくりでは「テーマ 5、6」などが該当すると思われるため、これらの指標が向上するよう、努力していく。 また、同基本構想改定にあたって、区民から住環境に関する意見が多数寄せられている状況であるが、法律の建付け上、住居は対象になっていないため、公共交通手段も含め、住居からの移動をどう考えていくか等、住居環境についてもマスタープランと連携して取り組みを進めていければと思う。	

2	資料 3	成果管理はデータを整理するだけでも大変な作業かと思うが、公表していくことを含めてとても大事である。また、重点戦略の進捗やまちづくり方針等のアウトプットを取りまとめていただいているのも、とても大事な取り組みだと思う。 一方で、P2、3 で記載されている区民満足度アンケートに対する集計に関して、可能な範囲でもう一步踏み込んだ分析、特に年齢階層別や居住年数別で満足度がどのように変化しているかについて、クロスで集計を取れると、何かヒントが得られるのではないかと感じた。 最後に、総合的なまちづくりの満足度(アウトカム指標)のうち、「5 区民の力で新たな価値を創造し、未来に発信するまち」の向上度(変動値)が、他の指標と比べて非常に高いように見えるが、理由が分かれば補足説明願う。	最後の質問について、5 で集計している設問は「江東区のまち並みが美しいと思う区民の割合」、「気軽に利用できる地域活動施設があると思う区民の割合」となっている。本区における街並み形成の取り組みが評価されたと認識している。
3	資料 3	交通部門に関して見ると、「6 快適に移動できるネットワーク都市」の満足度も若干ながら下がっているが、ネットワークそのものが不便になっているというよりは、不便な地域に人が住み始めているために、相対的に満足度が下がっているのではないかと想像する。公共交通の希薄な臨海部に人が住み始めると、ここの数値が下がるのは必然のようにも思われる。 市古委員からも意見があったように、エリア毎に中身を細かく分析し、一体何が起きているのか、現象を捉えていただければと思う。	

4	資料 3	P3 の地区別の分析について、他の委員からも意見があったように、性別や居住年数別等、属性別の分析も実施いただければと思う。作業が大変なようであれば、データをいただければ卒業研究・修士研究の一環として研究室で実施することも可能である。 特に都心部においては、防災・交通・多様性等が共通の課題として認識されてきているため、江東区でこのような分析ができれば、非常に有意義な研究になると思う。 地区別に見ると、説明にもあったように、特に城東地区の数値が低いことが分かる。そのような状況を踏まえ、例えば城東南部地域では、北砂三・四・五丁目地区の地区計画改定に向けて取り組みを進めており、亀戸駅前では再開発による街並み形成が進んでいるため、このような取り組みを通じて満足度を上げていくことが重要だと思う。 また、南部地区東についても区平均と比較し数値が低いため、地下鉄8号線の延伸を契機に、なるべく事業者に対し先手を打って取り組みを進めていくことが重要である。	
5	資料 3	データをいただければ当研究室でも分析可能である。また、「満足度」の定義がよくわからない。	

令和 7 年 9 月 2 日
都市整備部都市計画課

江東区都市計画マスタープラン2022 の成果管理について

令和 4 年 3 月に策定した「江東区都市計画マスタープラン2022」では、重要なまちづくり政策として重点戦略を掲げるとともに、プランの着実な推進に向けて成果管理を行うこととしている。令和 6 年度の実績及び今後の予定等は以下のとおりである。

1 重点戦略の進捗

重点戦略 1 : 「地下鉄 8 号線延伸のまちづくり」

- 「江東区地下鉄 8 号線沿線まちづくり構想」策定（令和 5 年 3 月）
- 「（仮称）枝川駅周辺地区まちづくり方針」策定（令和 7 年 3 月）
- 「（仮称）千石駅周辺地区まちづくり方針」策定予定（令和 8 年 3 月）
- 「住吉駅周辺地区まちづくり方針」策定予定（令和 9 年 3 月）

重点戦略 2 : 「未来の臨海部のまちづくり」

- 「江東区臨海部都市交通ビジョン」策定(令和 6 年 3 月)
- 臨海部を含む区全域を対象とした移動手段のマスタープランである
「江東区地域公共交通計画」を策定予定（令和 9 年 3 月）

重点戦略 3 : 「浸水対応型のまちづくり」

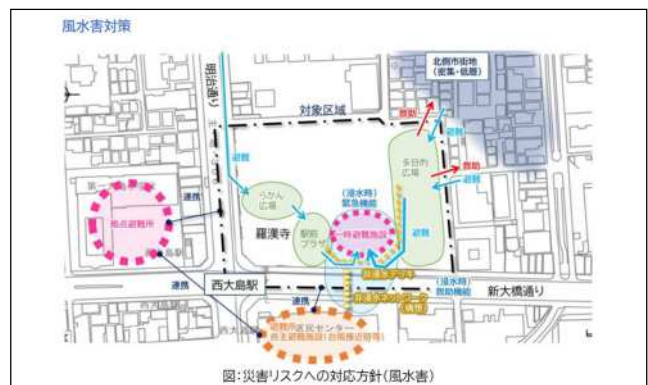
- 「江東区浸水対応型まちづくりビジョン」策定(令和 6 年 3 月)
 - 「西大島地域まちづくり方針【増補版】」改定（令和 7 年 7 月）※
 - 「大島三丁目駅前エリアまちづくり方針」策定（同上）※
 - 「（仮称）大島四丁目エリアまちづくり方針」策定予定（令和 7 年 10 月）※
- ※各まちづくり方針において、浸水対応の方針を盛り込む。

重点戦略 1 : 地下鉄 8 号線延伸のまちづくり



「（仮称）枝川駅周辺地区まちづくり方針」より抜粋

重点戦略 3 : 浸水対応型まちづくり



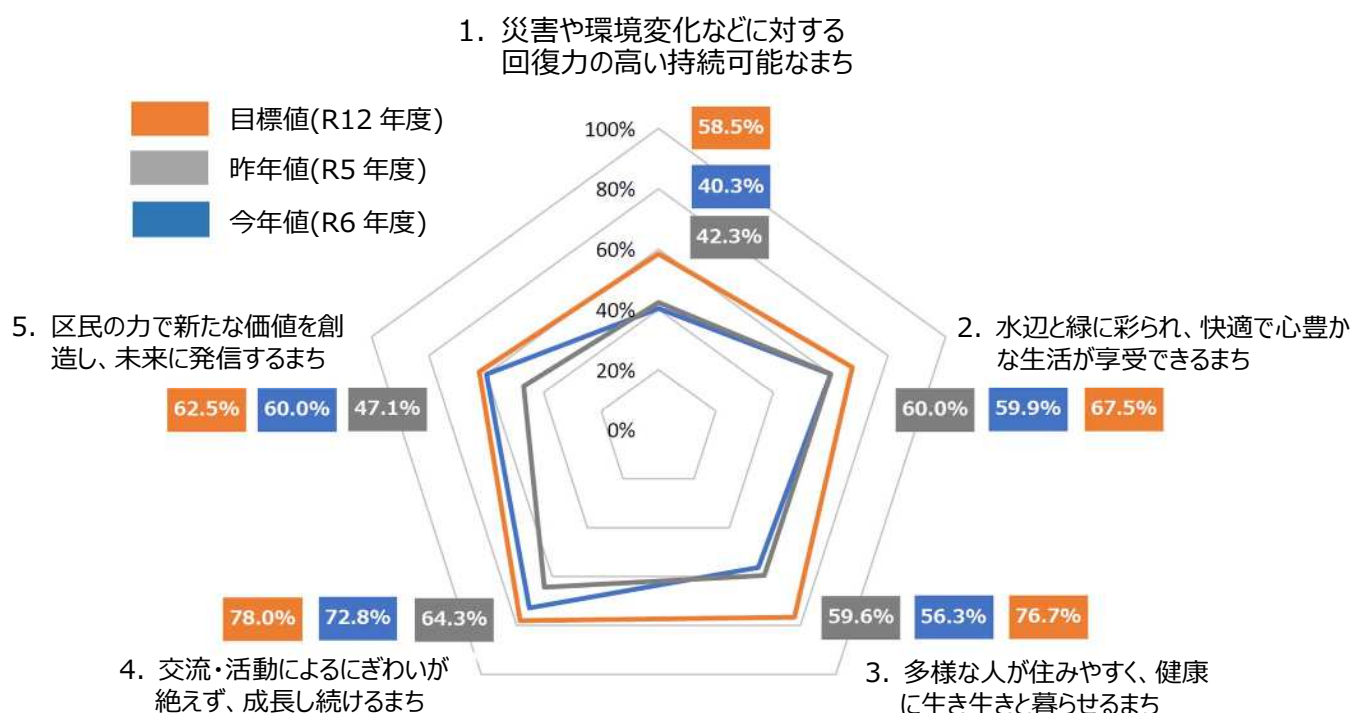
「（仮称）大島三丁目駅前エリアまちづくり方針(案)」より抜粋

2 成果管理

以下①から③について指標を設定し、まちづくりの進捗度合いを定量的・定性的にモニタリングする。

① 総合的なまちづくり

<表 1><図 1>で示すとおり、4、5 の項目において、前年度の満足度を上回る結果となったが、これは地下鉄 8 号線延伸への期待の高まりが影響していると考えられる。一方で、1～3 の項目では、前年度の満足度を下回る結果となった。激甚・頻発化する災害リスクを踏まえ、引き続き民間建築物の耐震化や重点戦略である浸水対応型まちづくり等の推進が重要である。また、区民アンケート調査において、災害に強いまちづくりに向けた防災対策の一層の充実が求められていることから、過去の震災の教訓を踏まえ、被災時の状況や復興後のまちの姿を地域住民と事前に共有する取組みについて検討していく。



<図 1>

【満足度（アウトカム指標）】

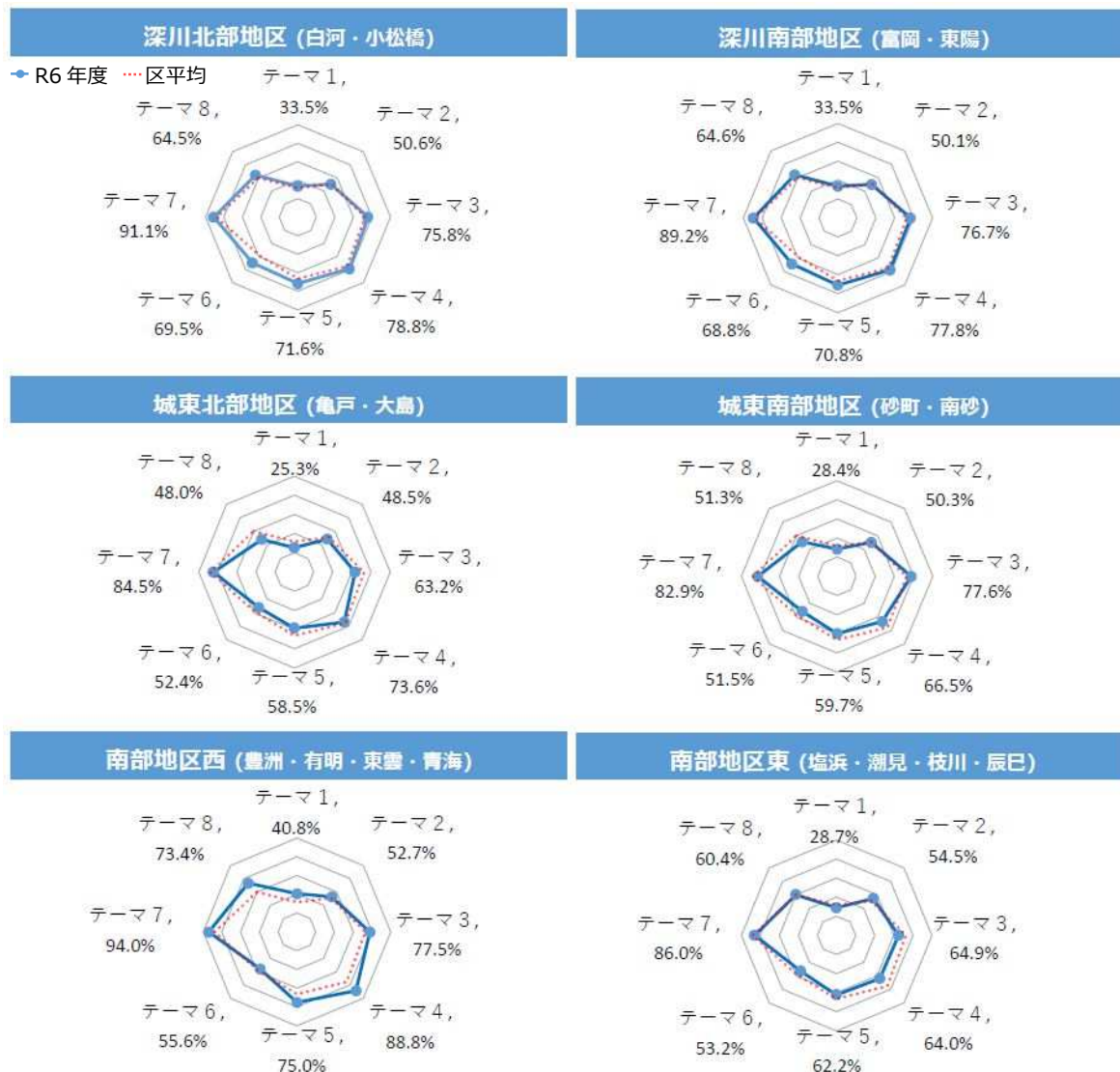
<表 1>

目指すべき江東区のまちの姿	満足度※		
	R5 年度	R6 年度	目標値
1 災害や環境変化などに対する回復力の高い持続可能なまち	42.3%	40.3%	58.5%
2 水辺と緑に彩られ、快適で心豊かな生活が享受できるまち	60.0%	59.9%	67.5%
3 多様な人が住みやすく、健康に生き生きと暮らせるまち	59.6%	56.3%	76.7%
4 交流・活動によるにぎわいが絶えず、成長し続けるまち	64.3%	72.8%	78.0%
5 区民の力で新たな価値を創造し、未来に発信するまち	47.1%	60.0%	62.5%

※江東区長期計画区民アンケート調査を基に算出。目標値の年次は令和 13 年度。

② テーマ別まちづくり

<表 2><図 2>で示すとおり、7の満足度は前年度の満足度を大幅に上回り、3、7、8以外項目において、前年度の満足度を下回る結果となった。特に1の満足度については、「総合的なまちづくり」と同様の傾向が見られ、安全・安心への関心の高まりが伺える。



<図 2>

テーマ別の部門	満足度※ (地区平均)	
	R5 年度	R6 年度
1 緊急時にも適時的確に対応する回復力の高い都市 (安全・安心部門)	32.7%	31.7%
2 地球温暖化対策に対応する脱炭素都市 (環境部門)	51.3%	51.1%
3 水辺と緑に彩られ交流と活力を生み出す快適な都市 (水辺と緑部門)	72.3%	72.6%
4 多様な暮らしを育む定住都市 (住環境部門)	76.0%	74.9%
5 誰でも生き生きと暮らせる健康都市 (健康・スポーツ部門)	67.2%	66.3%
6 快適に移動できるネットワーク都市 (道路・交通部門)	59.2%	58.5%
7 自然や文化、地域資源が織りなす観光・交流都市 (観光・交流部門)	68.8%	88.0%
8 みんなでつくる美しいまち並みを次世代に継承する都市 (景観部門)	58.4%	60.4%

<表 2> ※江東区長期計画区民アンケート調査を基に算出

8部門の各代表指標（16項目）＜表3＞は、令和5年度から6年度にかけて、11項目が目標値に向けて数値は向上しており、1項目は横ばいであるが概ね計画どおりとなっている。

【事業活動量（アウトプット指標）】

＜表3＞

テーマ別の部門		代表指標			
		単位	R5年度	R6年度	目標値※
1 安全・安心	・特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化率	%	88.0	88.7	92
	・再生可能エネルギー設備を導入した区施設数	施設	78	82	84
	・災害協力隊の数	隊	330	329	337
2 環境	・区内の年間二酸化炭素排出量	千t-CO2	2,718 (3年度)	2,662 (4年度)	1,680
	・再生可能エネルギー設備を導入した区施設数(再掲)	施設	78	82	84
	・地球温暖化防止設備導入助成申請件数	件	961	1,319	1,680
3 水辺と緑	・水辺・潮風の散歩道整備率	%	61.17	61.62	65.11
	・緑被率	%	—	—	22%
4 住環境	・区営住宅の整備・改修の団地数	か所	3/13	4/13	13/13
	・マンション計画修繕調査支援事業の助成件数	件	40	19	45
5 健康・スポーツ	・区立スポーツ施設の利用者数	千人	1,767	1,744	2,550
	・公園面積	ha	515.1	578.7	550
6 道路・交通	・主要生活道路（区道）の改修面積	m ²	30,888	30,413	30,000 m ² /年
	※毎年度の改修面積を目標値としている。				
	・細街路拡幅整備延長	m	22,179	22,922	28,179
7 観光・交流	・観光ガイドの案内者数	人	2,088	2,746	3,000
	・「江東ブランド」認定企業数	社	57	58	83
8 景観	・水辺・潮風の散歩道整備率(再掲)	%	61.17	61.62	65.11
	・無電柱化延長（区道）	m	24,023	24,846	26,940

※目標値の年次は指標ごとに異なる
※長計の指標に準ずる

③ まちづくり方針等の策定

将来都市構造における22の拠点等について、まちづくり方針等の策定を目指すこととしており、社会情勢の動向を踏まえ、大規模な土地利用転換等を契機としたまちづくりを引続き検討するとともに、地域住民の意識啓発や勉強会等の取り組みを支援するなど、まちづくりの機運を醸成していく。

【まちづくり方針の策定状況】※令和7年7月末時点

＜表4＞

まちづくり方針 一覧		策定数
策定済み	潮見地区まちづくり方針（H20）	7
	北砂三・四・五丁目地区まちづくり方針（H30）	
	西大島地域まちづくり方針（H30）	
	亀戸六丁目まちづくり方針（H30）	
	新砂二・三丁目地区まちづくり方針（R2）	
	（仮称）枝川駅周辺地区まちづくり方針（R6）	
	大島三丁目駅前地区エリアまちづくり方針（R7）	
今後予定	（仮称）千石駅周辺地区まちづくり方針（R7）	2
	住吉駅周辺地区まちづくり方針（R8）	